

プラネタリーヘルスを加速する社会実装・人材育成駆動モデルの構築による経営改革の推進 ～海洋イノベーションをコアとして～

大学のミッションに基づく全学改革構想

「プラネタリーヘルス」とは、社会や地球が抱える課題に対し有機的な知の連鎖を誘発させ、活性化させるという長崎大学の新たな挑戦です。

- ✓ 長崎大学は、プラネタリーヘルスの実現というミッションのもと、特色ある熱帯医学・感染症分野、放射線医療科学分野に続く**第3の研究コアとして、海洋県長崎の地域特性を基盤とした、「海洋未来イノベーション」及び「先端創薬イノベーション」領域研究の強化・推進を構想**
- ✓ 地域の課題に対し、本学の強み・特色をコアとして、**大学経営の好循環システムを実装**



長崎県（地域）の課題・ニーズ

- 少子化、若者の県外流出、人口減少
 - 近年、水産海洋産業に注目が集まる中、水産産業の後継者減少、海洋人材不足
- ⇒ **新産業創出・生産性向上・雇用拡大への大きな期待**

学長主導の**経営**マネジメント
ビジョンの共有、戦略的資源配分



○長崎大学と長崎県・産業界との連携による海洋技術創出クラスター構想



長崎大学の強み・特色

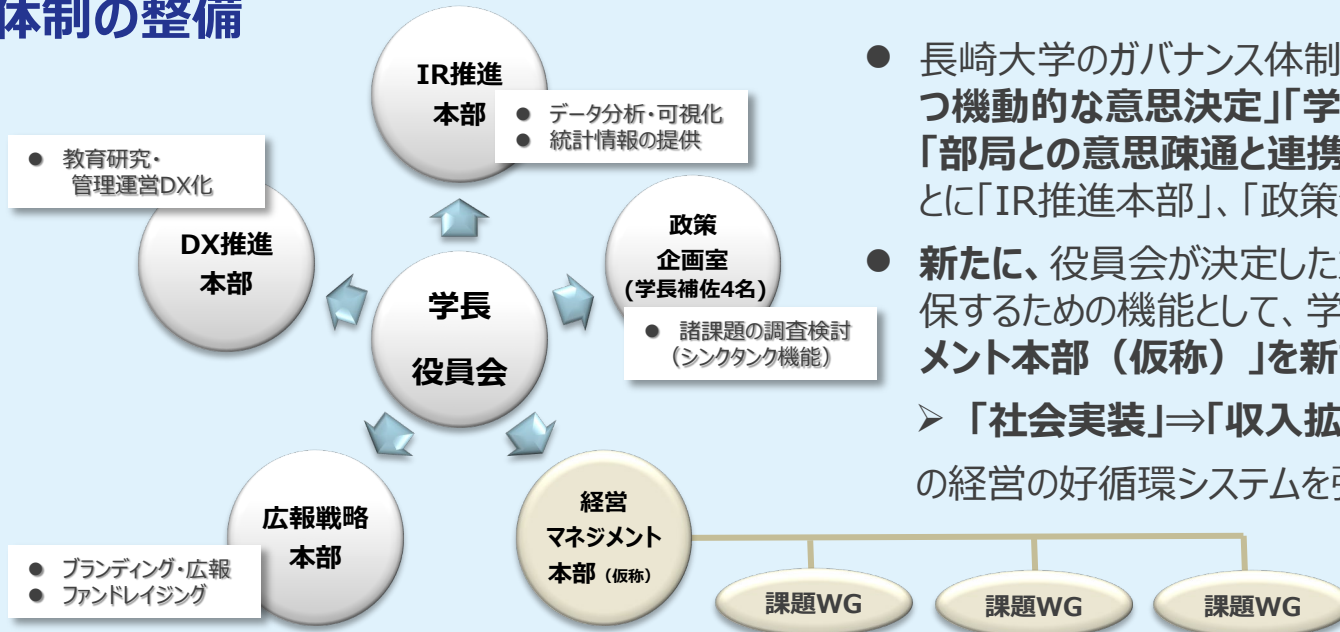
- プラネタリーヘルス実現に向けた全学推進体制
 - 学際的分野横断組織の先進的基盤
 - 海洋県長崎の地域特性を活かした海洋・創薬研究
 - 海洋再生可能エネルギーなどの海洋工学研究
- ⇒ **海洋・創薬分野への集中投資により、果実獲得を早期化し、経営の好循環**

消費者として
エシカル消費

企業経営者
として
ESG経営

取組 1 : 経営マネジメント機能の整備によるガバナンスの強化

体制の整備



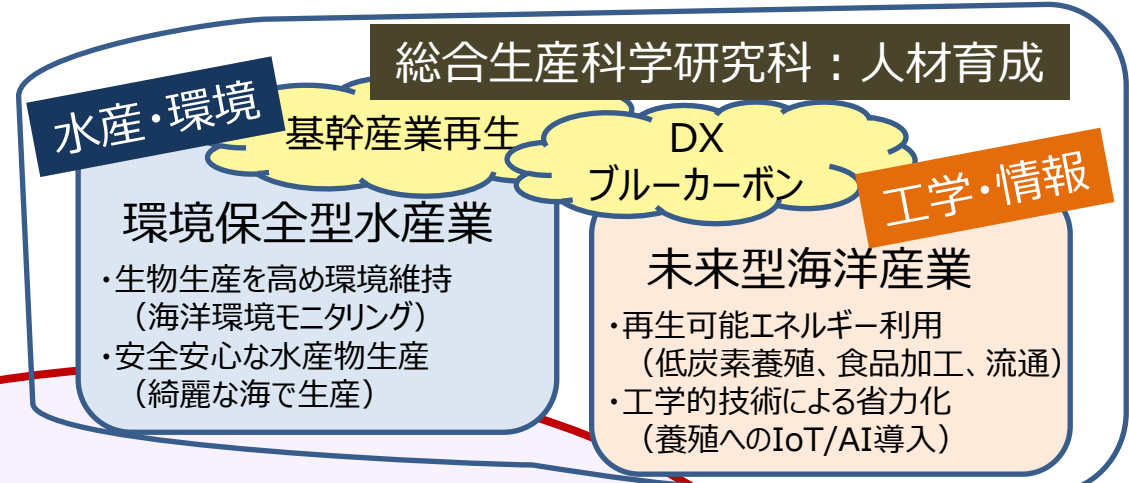
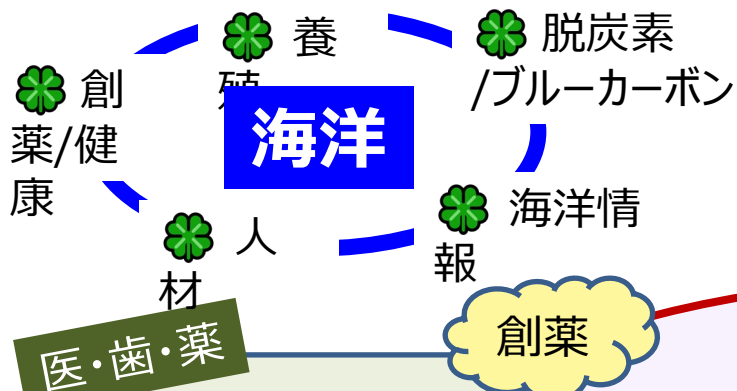
- 長崎大学のガバナンス体制は、組織運営において「迅速かつ機動的な意思決定」「学長主導の企画立案機能」及び「部局との意思疎通と連携」の3つをその軸とし、学長のもとに「IR推進本部」、「政策企画室」などの機能を整備。
- 新たに、役員会が決定した方針を具体化し、その実行を担保するための機能として、学長を本部長とする「経営マネジメント本部（仮称）」を新設。
 - 「社会実装」⇒「収入拡大」⇒「人材育成」の経営の好循環システムを強力に駆動。

強化タスク

- ◆ 教育研究機能強化のための戦略的資源配分
 - 人事ポイント制度改革（学長裁量ポイント戦略的活用）、URA／技術職員の育成・体制強化
- ◆ 産業振興及び地域課題解決への貢献、外部資金獲得等の財務基盤の強化
 - ネットワーク形成、URAや外部専門人材による外部資金獲得支援
- ◆ 博士課程学生・若手研究者等の優秀な人材の獲得・育成
 - 生活費・研究費支援の拡充、テニュアトラック、PI人件費、バイアウト制度の活用
- ◆ 人材の多様化（働き方改革・ダイバーシティ推進）

海で繋がるプラネタリーヘルス ～長崎大学の強みを活かす場の構築～

具体的学内連携

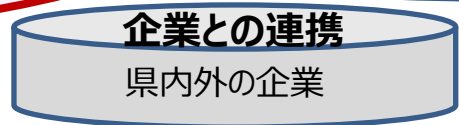
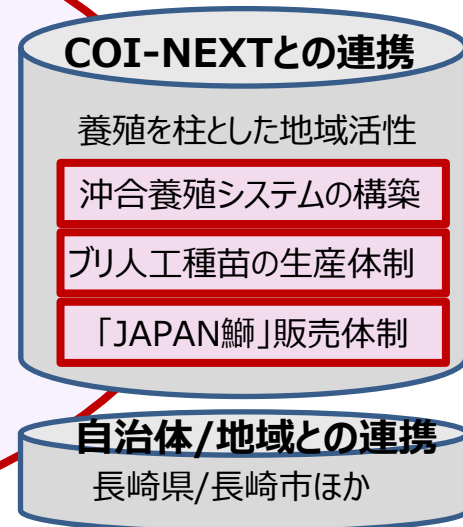
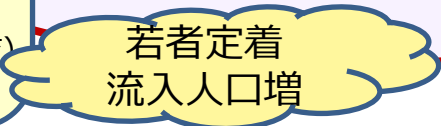
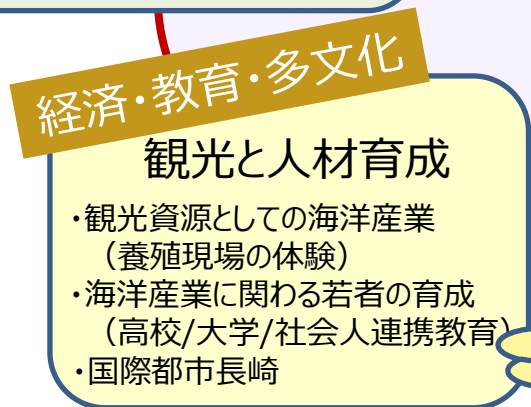
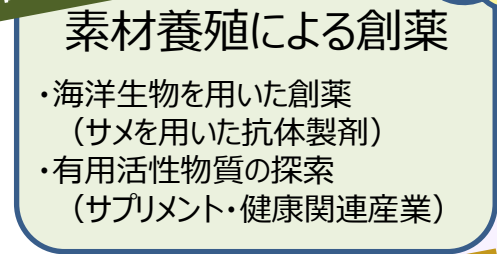


大学の強みを活かす場の構築 (学内連携・産学連携)

海洋未来イノベーション機構

先端的技術を導入した 海洋研究体制の整備

- ・養殖/創薬/海洋機器のための実験実証施設
- ・実践教育/研修施設



取組 2 : 海洋イノベーション創出のための研究・産学連携基盤の整備

海洋イノベーション創出のための研究拠点の整備

研究の高度化

➤ 我が国における海洋研究の一大研究拠点

- 水産・環境・工学・情報・医歯薬連携による水産海洋技術開発のための研究体制と社会実装に向けた整備
- 環境保全型養殖・・・安全安心な養殖技術研究、養殖用種苗生産の技術開発
- 未来型海洋産業・・・AIを用いた自動給餌器など先端的工学技術の開発
- 素材養殖による創薬・・・サメ等の海産生物を用いた新たな創薬試験
- 産業の低炭素化・・・藻場再生と藻類を活用した炭素固定によるブルーカーボン研究

COI-NEXTと連携した技術開発の推進

○大学発ベンチャー(5年後の設立を目指す)



養殖魚生産基地



新規製剤開発

○研究開発・研修・実習拠点施設の整備

➤ 地域活性化に貢献



生物飼育試験、海洋機器実海域試験、研修設備等を整備

海洋産業に取り組む産学交流体制の整備

地域共創

➤ 地域活性化に向けた産学連携拠点

- 地域・市民を巻き込んだ多様なステークホルダーの交流の場の整備
- 長崎水産三機関連絡会議の活用・・・長崎大学・長崎県総合水産試験場・(国)水産技術研究所の連携による研究と地域活性化体制の強化
- 交流/議論の場の整備・・・学部/大学院生(他大学を含む)、高校生、企業、自治体関係者、養殖生産者などを対象とした交流体制の強化
- 地域産業との連携強化・・・水産と海洋産業の体験型観光との連携

長崎水産研究三機関連絡会議の活用と連携の強化



長崎大学



水産技術研究所



長崎県総合水産試験場

- わが国で初めての実証試験と実践教育の場と体制と整備
- 企業との共同研究促進、研修等の積極的実施

取組3：海洋イノベーションをコアとした実践教育・人材育成の強化

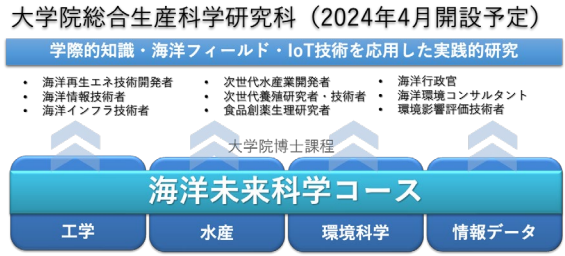
実践教育プログラム 質の高い研究者の輩出

➤ 海洋の研究者・技術者養成

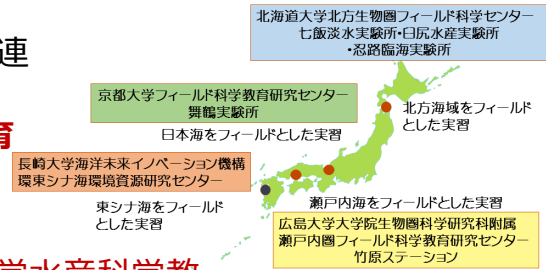
- 水産海洋を多面的・俯瞰的に捉える実践的教育を通して、この分野において次世代を担う若者の養成
- 分野横断的教育・・・生物、環境、海洋工学、食品利用、創薬。多面的・俯瞰的に海洋を捉える能力を養う。
- 海洋開発と漁業協調教育・・・洋上風力発電人材育成事業（経産省）と連携。
- 他大学と連携した教育・・・他大学の学生と共に学び、広い視点を持って課題可決する能力を養う。
- 海外の学生と共に学ぶ教育（国際実習）・・・海洋における国際的視点と国際感覚を身につける。

新研究科海洋未来科学コースと連携

長崎大学（幹事）、各電力会社、秋田大、秋田県大、北九州市大、千葉大が参画教育関係共同利用拠点と連携。特に北大・京大・広大と進める水産海洋実践教育ネットワークを活用



水産海洋実践教育ネットワーク



人材育成プログラム 地域産業の活性化と若者定着

➤ 地域人材育成と若者の定着のための社会人・学外者教育

- 社会人を中心とした課題解決型教育を大学において実施。産学官それぞれにおける将来のリーダーを育てる教育。
- 課題解決型社会人教育・・・所属企業等の中で起こる課題を持ち寄り、その解決方法を実践的に探る。
- 異分野交流・・・異なる職種、分野、身分（学生も含め）で水産海洋の課題を深掘りし、その解決策を議論する。
- 地域課題解決に向けたプラットフォーム・・・多くのステークホルダーを巻き込んだセミナーやシンポジウム、体験学習を柱とした教育によって、地域全体での意識の向上を図る。

東シナ海海洋学水産科学教育研究コンソーシアム（長崎大（幹事）、琉球大、韓国済州大、台湾海洋大、台湾高雄科技大、上海海洋大）による学生交流と実習の連携



実施中の海洋サイバネティクス教育（水産学部）と連携

COI-NEXTと連携

●新たに整備する研究教育施設を活用し、これまでにない実践教育を実施